

# 第1回大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会議事録

日時：令和7年10月31日（金）午後2時～

場所：大田区役所本庁舎 第五・第六委員会室

## ○事務局

それでは定刻となりましたので、ただいまより、第1回大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会を開催いたします。まず、会に先立ちまして、大田区選挙管理委員会委員長 田中一吉より、ご挨拶申し上げます。田中委員長、よろしくお願いいたします。

## ○田中委員長

皆様、こんにちは、大田区選挙管理委員会委員長の田中一吉でございます。この度の参議院議員選挙における投開票に関する事務執行においては、不適正な取り扱いにより、区民の皆様をはじめ、多くの方々に対しまして、多大なご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。公正で信頼できる選挙事務を担うべき、私たち選挙管理委員会にとって、このようなことはあってはならない重大な事案であります。本事案を受け、この大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会を設置するとともに、後ほどご紹介をいたしますが、ご臨席いただいている4名の方々に委員を委嘱させていただきました。本日お集まりいただきました委員の皆様におかれましては、お引き受けくださり、誠にありがとうございます。本委員会において、厳正な事実関係の検証と、徹底的な原因究明について、十分に議論を重ねていただき、再発防止に向けたご提言を賜りたいと存じます。選挙管理委員会といたしましては、ご提言を真摯に受け止めることはもちろん、事案の検証と選挙事務の改善にしっかりと活かし、取り組むことで、二度とこのような事態を招かない体制を築いてまいる所存でございます。区民の皆様をはじめ、多くの皆様からの信頼回復に向けて、区と連携しながら、全力で取り

組んでまいります。結びに委員の皆様におかれましては、ご多忙の中を誠に恐縮ではございますが、何卒ご知見を頂戴し、お力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。以上甚だ簡単ではございますが、私の挨拶に代えさせていただきます。改めまして、このたびは多大なご迷惑・ご心配をおかけして誠に申し訳ありませんでした。

#### ○事務局

田中委員長ありがとうございました。続きまして、大田区選挙事務不適生処理再発防止委員会委員のご紹介をいたします。委員の皆様については、私からお名前と肩書を申し上げますので、一言ご挨拶をお願いいたします。

一般社団法人 選挙制度実務研究会 理事長、総務省管理執行アドバイザー、主権者教育アドバイザー 小島勇人（こじまはやと）様。

#### ○小島委員

ご紹介いただきました。小島勇人でございます。今回こういう開票作業に関する事件が起きましたが、過去にも同様な事件が何回かあったんですけれども、起きたことは、起きたこととして、今後のですね、大田区が適正な選挙事務が行えるように、我々として一生懸命叡知を結集しながら、結論を出していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### ○事務局

続きまして、慶應義塾大学法学部教授 谷口尚子（たにぐち なおこ）様。

#### ○谷口委員

はい。慶應義塾大学の谷口尚子と申します。今回のような非常に重要な問題は、複合的な要因が関わったと推察されます。この問題に関して再発防止に取り組めるよう、議論してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○事務局

続きまして、のぞみ総合法律事務所 弁護士 佐藤郁美（さとう いくみ）様。

### ○佐藤委員

弁護士の佐藤郁美と申します。今回、選挙に関しまして、不祥事案件が生じたということ、お聞きいたしました。私、企業に関して、でございますけれども、不祥事案件に関しまして、日本・米国において再発防止等にかかる経験が幾つかございますので、私のこの経験が皆さんのお役に立てるよう、しっかりと議論していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### ○事務局

続きまして、大田区自治会連合会理事 堀江 敏雄（ほりえ としお）様。

### ○堀江委員

ご紹介いただきました堀江でございます。今回地域代表ということで、参加をさせていただいております。選挙ですので、投開票、2つのところがうまく連携できないとですね、そのようなこともあり得るのかなということもありますので、その辺、先生方と一緒に勉強して行きたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

### ○事務局

委員の皆様ありがとうございます。それでは議事に入ります。議事の1番でございます。大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会委員長の選出でございます。お手元でございます、参考資料「大田区選挙事務不適正処理再発防止委員会運営要綱」の第3条の規定に基づき、委員の互選により決定いたします。申し訳ございませんが、それでは委員の皆様にご協議いただければと思います。よろしくお願いいたします。

### ○谷口委員

よろしいでしょうか。こうした問題に対する専門性やご経験から言いまして、小島委員に委員長をお願いしたく存じますが、いかがでしょうか。

### ○佐藤委員

異議ございません。よろしくお願いいたします。

○堀江委員

同じく異議ございません。よろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。協議により、小島委員が委員長として互選されました。

それでは小島委員長よろしくお願いいたします。

○小島委員

ご推挙につきまして承知いたしました。この種の事件に関する今までの数々の第三者委員会等も経験しており、選挙事務という専門性もありますので、それらを活かしていければと思いますし、各委員の皆様方のそれぞれの分野のですね、ご経験と知見を生かし発揮して頂きながら、本委員会としての考えを形にしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局

では、議事の（２）諮問に入ります。大田区選挙管理委員会 田中委員長お願いいたします。

○田中委員長

それでは選挙事務に係る不適正処理に関する検証及び再発防止策について、次のとおり諮問いたします。

１ 諮問事項

令和７年７月２０日執行第２７回参議院議員通常選挙における不適正な選挙事務執行の事実関係及び原因究明並びに再発防止のための対策について。

２ 諮問理由

令和７年７月２０日執行第２７回参議院議員通常選挙において、不在者投票者数の一部について二重計上が行われていたことで、開票を行う際に投票者総数と実際の票数に不整合が生じ、その差分を架空の白票及び不足票として処理したこと

が判明しました。

本事案は、公職選挙法に抵触する選挙の公正性・信頼性を大きく揺るがす重大な問題であることから、当該選挙で発生した不適正な選挙事務執行の事実関係及び原因究明並びに再発防止のための対策について、調査審議の上でご提言頂きたく諮問するものです。以上、よろしくお願い申し上げます。

### ○小島委員

今、委員長から本委員会に対して諮問いただきましたので、委員長がおっしゃっていたとおり、この問題について、これから進めていきたいと思います。次第に基づき、進めますけど、まずは、資料の説明をしていただきます。事務局長の方からよろしくお願いいたします。資料については、一旦、5番まで説明いただいた後で、具体的に疑問点とか審議に入りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。では事務局長お願いいたします。

### ○事務局

よろしくお願い致します。選挙管理委員会事務局長の片平でございます。資料1から5の説明をさせていただきます。はじめに、資料1をご覧ください。こちらは、大田区における投票から開票までの全体を整理したものでございます。1枚目は、投票の流れでございます。投票の方法は大きく4つございまして、図にございます期日前投票・当日投票・不在者投票そして今回、図示しておりませんが、在外投票がございます。期日前投票は本庁舎と18特別出張所で実施し、不在者投票は入院・入所施設や他自治体等で行われます。投票済の投票用紙は、封筒に入れられまして、本庁舎の選挙管理委員会へ郵送または持ち込みされます。当日投票所からは、投票終了後、午後8時過ぎに投票箱が順次、開票所である大森スポーツセンターへ送致されます。期日前・当日・不在者投票、すべての投票箱がこの開票所に集約されます。なお、指定投票区である蒲田小学校では、不在者投票の封筒の開披・集計作業を当日投票とは別に行い、終了後に不在者投票用の

投票箱へ投函するというような手順となっております。

それでは2枚目をご覧ください。こちらは、開票の流れでございます。開票所に到着しました投票箱は、①の開披台で一斉に開封されます。そして、②の分類機班で機械を使って、票を候補者や政党ごとに自動で仕分けます。次に、③のリジェクト班です。分類機で読み取れなかった票を、従事者が手作業で仕分けます。続いて、④の検査班です。リジェクト班で仕分けた票を含め、候補者・政党ごとの束が正しいか、一枚ずつ目視で確認します。⑤の疑問班では、有効か無効か判断が難しい票をここで審査をいたします。その後は、検査班での検査が済んだ票は⑥検査済センターを經由して⑦の計数結束班で票を計数機で数え、500票ごとに束ねてバーコード付きの付票を添付します。⑤の疑問班で有効・無効の審査を行った票は、回示票として開票管理者、立会人の点検後⑧の回示票計数担当でバーコード付きの付票を添付します。最後に、⑨の集計班です。付票のバーコードを読み取り、開票システムに入力し、候補者ごとの得票数を集計します。このように、開票作業は分類から検査、集計へと段階を踏んで進みます。それぞれの票が順次まとめられて、最終的に翌朝3時～5時頃に開票結果が確定いたします。

また、大森スポーツセンターには、図の上部の速報室も設けられておりまして、投票速報の入力や投票者総数の確定作業も同時並行で行われております。本件の不在者投票の二重計上はこの速報室で、発生したものとなります。また架空の白票の計上は開票所の⑨の集計班で発生したものでございます。続いて、資料2をご覧ください。2ページ目の「3 選挙当日・投票速報」をご覧ください。投票速報の流れについてご説明をいたします。この業務は、選挙前日の準備から、当日の入力、そして最終的な確定報告まで、一連の手順で行われております。まず「1 前日準備」です。期日前投票と不在者投票の結果が19日夜までに確定した後、そのデータを「期日前・不在者投票システム」からCSVで出力しまして、投票速報システムに取り込み、登録をいたします。この作業が、翌日

の投票速報業務の基礎データになります。次に「2 投票状況集計」です。当日は、各投票所の庶務係長がスマートフォンを使いまして、午前9時、正午、午後3時、午後6時の計4回、投票者数と有権者数を速報システムに入力をいたします。開票所では速報担当が入力状況を確認しまして、エクセル形式でまとめて区ホームページ等に公表します。3つ目は「3 不在者投票集計」です。当日の午後7時頃、本庁舎の不在者投票担当が、不在者投票システムから70投票区分の不在者投票者受付数データをPDFで抽出しまして、速報担当に送信をいたします。速報担当はそのPDFをもとに、確定報告用のエクセルへ手入力で転記を行います。この工程で、後に二重計上が発覚をしたということでございます。続いて「4 投票状況集計、午後8時最終回」です。全投票所の入力が完了した後、速報担当がデータを取りまとめていきます。最後に「5 投票者数確定報告」になります。各投票所から投票録が届き次第、速報システムの数値と投票録の記載内容を照合します。一致が確認された時点で速報システムから投票者数確定報告を出力いたしまして、東京都選挙管理委員会へ報告するとともに、区ホームページへ掲載します。次のページをご覧ください。誤りが発生したのは、この集計過程のうち、不在者投票者数の集計の部分でございます。本来であれば、19日までの不在者投票者数2,590人に、20日当日に受理した分279人と在外投票者数360人を加えまして、合計で3,229人となるのが正しい計算でした。ところが、20日までの不在者投票者数2,869人を20日当日の分と認識してしまい、その結果、すでに含まれていた19日分の2,590人を二重に計上してしまいました。次のページをご覧ください。こちらは、今回の投票速報業務に関係するシステム構成の全体像を示したものでございます。期日前・不在者投票、在外投票、当日投票そして投票速報、それぞれが別々のシステムで運用されておりまして、相互に自動連携されていない構成になっております。そのため、データの受け渡しは、CSVの取込みやPDF出力など、人の手による転記や確認を介して行われる形となっています。この構成

自体が、今回の誤りの直接の原因ではありませんが、データの扱いが複雑で、確認に時間を要するという点で、今後の改善を検討すべき要素の一つと考えております。次に資料3をご覧ください。こちらは、開票所における票の集計の本来の業務フローを整理したものでございます。なお、ここに示された数値は、あくまで流れを説明するためのイメージでございます。票は、検査済センターに集められた後、まず計数結束班で枚数を確認いたします。職員が2人体制で100枚単位の束を作り、それを5束にまとめて500票とし、バーコード付きの付票を添付します。続いて、集計班がこのバーコードを専用端末で読み取り、候補者・政党ごとの得票数をシステムに反映いたします。端数票につきましては手入力用のバーコード付票を、担当者が直接システムに入力します。端末は2台設置されておまして、それぞれ独立して集計を行います。集計が進むと、開票集計システムの画面上には投票者総数20,000人、集計した票数19,000票、残数1,000票が表示され、票数を確認できる仕組みとなっています。そして、下段の疑問班で審査された票も、同様に二重体制で枚数を確認しまして、バーコード付票を添えて集計班に引き渡します。回示票900票が加算されまして、最終的な集計では、回示票を含め“集計した票数が19,900票となり、100票が「持ち帰り不足票」、いわゆる用紙を交付しましたが投函されなかったと推測される票として計上いたします。このように、本来の業務フローでは、各段階で複数人確認とシステム照合を行いまして、票数の整合を確実に確認した上で、開票作業を完了いたします。続きまして、次のページをご覧ください。こちらは、実際の参議院議員選挙における開票所での票の集計の流れを、整理した図となっております。こちらにも示された数値はイメージです。下段をご覧ください。本来、疑問班で審査された票は、計数結束班で再度枚数を確認しまして、その票数をバーコード付票に記載して集計班に引き渡す手順となっております。本件では、疑問班に届いた票が約400票であったため、開票集計システム上では2,600票分の不足が表示されるという状

況となりました。担当者はこの差を不自然と感じ、白票(無効票)として約 2,500 票分の架空の付票を作成し、集計班に提出してしまいました。その結果、システム上の表示は、投票者総数 20,000 人、集計した票数 19,900 票、持ち帰り不足票数 100 票となり、整合性があつたように見える形で処理を完了してしまいました。最後の資料 4、5 は参考資料となります。資料 4 をご覧ください。期日前投票所・当日投票所・開票所の全体の体制になっております。まず、期日前投票所は本庁舎および 18 の特別出張所に設置いたしまして、合計 19 か所において、1 日当たり約 280 名の体制となっております。次に、当日投票所は 70 か所に設置しまして、各所に投票管理者・立会人・事務長・庶務係長などを含めて、全体で約 1,200 名規模の体制となっております。次ページをご覧ください。こちらは開票所でございます。大森スポーツセンターを会場としまして、分類機班・リジェクト班・検査班など、約合計 500 名規模の体制となっております。最後に資料 5 をご覧ください。こちらの図は、開票会場の大森スポーツセンターにおける配置を示したものでございます。各班の位置関係、作業導線、立会人の位置など、当日の開票作業全体のレイアウトでございます。さきほど説明差し上げた資料①の番号とリンクしておりますので併せてご覧をいただければと思います。資料の 1 から 5 の説明は以上でございます。

#### ○小島委員

ご説明、ありがとうございました。

#### ○事務局

委員長申し訳ございません。事務局から事務連絡をさせていただいてもよろしいでしょうか。申し訳ございません。ここから審議に入りますが、以降からは報道機関の皆様においても、写真撮影、録音、録画、放送等はお控えいただきますよう何卒お願い申し上げます。

#### ○小島委員

注意事項は、そういうことですので、よろしくお願いいたします。それでは今、事務局長からご説明がありましたけど、各資料について、委員の皆様からご意見、あるいは疑問点がありましたら、ご発言をお願いいたします。

#### ○谷口委員

谷口でございます。ご説明をありがとうございました。先ほどのご説明にもありました通り、この問題は1つは集計ミスの部分と、もう1つは間違いを不誠実に取り扱ったという部分から成ると思います。私の理解不足で恐縮ですが、前者について確認させていただきたいんですけれども、不在者投票担当者さんが当日までの数値というのでしょうか、1日ずつの投票者数というものを、エクセル等で管理されていたんだと思いますけれども、その具体的なエクセル画面ないし、PDF画面は残っているのでしょうか。つまり、19日受付分とか20日受付分とちゃんとわかる形でデータ入力されていたのか、それともその段階で累積的に足してしまって、ミスが発生していたのか。それとも、当日の集計班が不在者担当者さんのデータを勘違いして、誤入力をしたのか。その辺はどちらなのでしょう。

#### ○事務局

まず不在者投票の集計作業と受付の作業というのは別々業務ですね。受付をする作業の者と集計をする作業は別の担当者になります。不在者投票担当は日々選挙期間中に不在者投票ということで、郵便や直接、選挙管理委員会の窓口で封筒に入れた投票用紙も持ってこられます。選挙人の方であったり、病院関係者であったり、こういう方々が窓口なり郵便などでお届けをします。これを我々は、不在者投票の受付ということで、日々、受付をしております。実際には受付をしたものは、システムに登録するような形で日々の件数ということで、システムに集約されることとなっております。ただ実際の集計作業は日々行っておらず、あくまでも集計作業をするのは投票の前日に、別の担当者が期日前の、どちらかというと、期日前の投票は前日に投票者数が確定するので、それと同時に不在者投票

の数も 19 日の前日までの集計を取って、エクセルで集約するような流れを取っております。

#### ○谷口委員

質問は、その不在者投票分のデータというのが、例えばエクセル上とかで、ちゃんと日にちに分けて、正しく記録されたファイルとして打ち出されるようになっていたか、という点です。こちらの資料の 3 ページの投票速報における不在者投票者数の二重計上の赤い部分なんですけど、不在者投票の 19 日までのものは正しくデータ化されていたのに、速報担当が、その受信した PDF を読み上げて、入力する際に何か勘違いして、累積的な数字を間違えて、20 日分として入れた、ということでしょうか？

#### ○事務局

お話していただいたお見込みの通り、集計作業のときに、20 日分のみを足せばいいところを、全体の数字と誤認して、集計してしまった次第でございます。

#### ○事務局

一つ補足をさせていただくと、不在者投票システム(期日前・不在者投票システム)がございまして、それは投票されると、システム上、どんどん加算されていきます。それは 18 出張所と本庁舎の 19 ヶ所が加算されていく。最後、それをソフト、エクセルを使ってそれにデータを 19 日分まではシステムから CSV で吐き出して、それをエクセルに取り込む。次の日にはその作業ができないので、20 の日ですね、PDF で出力をして、それを開票所にいる速報担当に FAX で送る。それがまさに 20 日当日分ではなくて、20 日までの累計の数字が PDF でいった。それを当日分と勘違いをして、速報担当はエクセルに手入力をしてしまったという流れです。

#### ○谷口委員

ということは、システムなり、不在者投票なりのところまでのデータは正しかっ

たけれども、受け取った速報担当の側がそれまでの累積と気付かず 20 日分を足してしまったということですね。速報担当側が何かそのデータを勘違いしてしまうような、PDF のあり方だったということでしょうか。

#### ○事務局

はい、そうですね。速報担当というものは、不在者投票には絡んではないということで、データの形式もですね、前日に集計したのはこの CSV という形式なんですが、当日は、PDF という形でちょっとまた形式が異なるものであったので、数字を見れば当日数ではないのかなというところで、分かるかもしれないんですが、ただ、実際には速報担当は不在者投票には携わっておらず、集計作業や入力作業も、機械的に行っておったので、実際には把握できていない、誤認する可能性は大いにあるかとは考えております。

#### ○谷口委員

はい。ありがとうございました。つまり、システムやデータの集計は間違っていないけれども、票数が伝えられる段階で、各日の受付分の票数とか書いてあれば、間違えなかったかもしれないけれども、何日・何票ぐらいしか書いていないと、その日に受付た票数か、累積的な票数かが区別できなくて、受け取った側は「この日のか」と思って入れちゃったっていうような、そのデータの定義のところに問題があるのかなと想像したので。あとは異なる担当者がそのデータを伝えるということで、なかなかデータの定義がわからないみたいところで齟齬があったってところですかね。はい。ありがとうございました。

#### ○佐藤委員

私も先ほどの谷口委員がご質問された点がちょっと気になっておりました。もとのルールとしては、当日累計したものが来るというルールとしてなっていたのか、つまり、担当者がそのルールを知らないで誤認してしまったのか、或いはその PDF 送られてきた書類に、何にもその辺が上手く明確に記載されていなかった

たので、それをそのまま入力した、送った側の送った方式のやり方がちょっと間違っていたのか、もう少し明確な形で送るべきだったのかっていう点をお聞きしたいと思いました。あともう1つの質問が、速報なので多分非常に慌てていらっしやったと思うんですね。なので、いろいろなミスが生じ得るかなというふうに思っているんですけども、そこでちょっと教えていただきたいのが、投票者数、投票者の総数、これを速報で確定をすぐしなければならない重要性っていうのがどの程度あるものか、という点です。投票者数は、結果には関係してこないじゃないですか。でもその速報の段階でどれだけ正確にやらなければいけないほどの重要性が高いものなのか、というところを教えていただきたいのと、投票者数を後でダブルチェックする機会があまりなさそうだったので、その機会がなかったのかどうかっていう点を教えていただければと思います。

#### ○事務局

まず1点目のご質問のところの、速報担当にはかなり時間的な制約がございます。実際には当日投票所は午後8時に終わるんですが、実際の投票者の確定というのは、遅くても9時、ないし10時、1時間半ぐらいで処理をしなければならないというところで、ルールというか、明確に法令で決まっているわけではないですか、区であったり、東京都であったり、こういった速報というのは、他自治体もなるべく早く、公表しなければならないということの、プレッシャーはあったかとは思いますが、そういったところで、実際にはその1時間ないし1時間半ぐらいで処理を行っているという実状でございます。

#### ○事務局

もう1つのダブルチェックというところですけども、先ほどご説明した選挙当日投票速報の中で、右にですね、速報担当というところで、配置としては、選管職員1名、あと当日ですね、応援ということで3名でやっていたというところで、非常に残念ながら、ダブルチェックする機会は多々、節目節目で必要だと感じて

いるところですけども、実際今回の場合は、チェックができなかった。このことは課題の1つだと考えております。

#### ○佐藤委員

ありがとうございます。この投票者数っていうのは非常に重要なものだということの理解は正しいということで、わかりました。すいません。あともう1つ質問なんですけども、結局そこで最終的にその数字がおかしいというところで、幾らかの作威的な行為が行われたということですけども、これこのまま何もしないでいたら、何が起こっていたかっていう点、作威が生じず、これがそのまま公表されたといったら、何もしない状態で、大きい数字がそのまま残ったと、いわゆる投票者数総数と、投票した人の総数がかなりの違いがある状態で、公表された場合、どういうことが起こりうる、どういう状態になるのか、っていうところちょっと教えていただければと思います。

#### ○事務局

基本的には、選挙のですね、当落には直接的には関係ないというところです。それと、大きく関係してくるところですと、例えば投票率というところが、おおよそ61.5%ぐらいだったんですが、それがですね今回の白票の計上が、もしなかったとすると61.1%。そうすると大体0.4%ぐらいの投票率が誤報告というか公表が間違っていたというところになるなと思います。

#### ○佐藤委員

公表された場合に、何らかの、この数字の大きさの違いがあれば、何らかのミスが生じたんだろうというようなことが周りにわかるような状態になるという理解でよろしいですか。これがこのまま公表された場合。

#### ○事務局

はい。そうですね。今回、不在者投票を二重計上して、白票で計上しないという、開票録といった、開票の集計結果を示す公表があるのですが、そこでの持ち

帰り不足票というものが、二千数百票ということで公表される。この持ち帰り票というのは、投票用紙を受け取って、ただし投票箱に投函せず、持って帰ってしまったのではないかと推測される票でございます。この票は必ず0にならず、どの選挙においても、やはり数票、数十票は発生するものではございますが、ただこれが千、二千ということは、まず考えにくいなことなので、仮にこれを公表するにしても、ちょっと明らかにまだ、開披されてない投票箱があるのではないとか、この2,600 っていうのはかなり異常な状態で、公表には至れないっていうのが、実状になるのかとは。

#### ○佐藤委員

はい、ありがとうございます。

#### ○小島委員

あと、ちょっといいですか。基本的には投票者総数イコール投票箱に入っている投票用紙の枚数が、理論上は一致しなきゃいけないですね。ですから、今回の件数、2千何票、2,600票多かったという、そもそも速報の段階で集計しているのか、それとも、区の選管としてどの程度、投票者総数の確定に関与しているのかとか、そのところはどうなっているのか。速報はあくまでも速報ですから、確定数値にはできない。確定数値っていうものをどの時点で出したのか。確定しないと基本的にですね、開票率の計算だとかそういうものができません。私の経験で言えば、投票取り分け投票者総数の確定というのは結構時間かかります。ですから、投票者総数が確定するまでは開票率は出せない。その辺を含めてどうなのかなって思っています。

#### ○事務局

投票者総数の確定については、選挙によって時間が遅れたり、早まったりもするんですが、おおよそ9時半ぐらいに確定作業は終え、この選挙の前の6月にも東京都議会議員の選挙があったんですが、そちらに関しては当日9時半あたりに終

えております。ただし、今回の確定作業については午後の 11 時ぐらい、当日投票終了から 3 時間ぐらい経過した後に、投票総数の確定ということに至りました。実際に投票者総数の確定については、かなり少ない人数でやっていることもあり、いろんなものが関与して、かなり正確な数字かと言われると、現状、精度の低い数字であった状況でございました。

#### ○小島委員

ということは、投票者総数が確定しないまま、その数字をいわば確定したと仮定してそういう形でやったんですか。

#### ○事務局

確定は確定ということでやってはおるのですが、ただ、今、我々もいろいろ見直している中で、もう少し精度の高い数字ということで、それをやらなければいけない、課題であったり改善の一つではあるんですが、投票者総数のところの精度、今はなるべく早くやらなければならないというところで、できない部分もあるかと思ひまして、それが開票の集計の方にも影響を及ぼしているのではないかと思います。

#### ○小島委員

基本的に、投票者数の確定というのは、その選挙で有権者の皆さんが正確に何を望むのか、投票されたかっていう基本的な、ある意味はですね、民意を表す数字でもある。ですから、二重計上した数字っていうのは、投票録には反映されていないということですから、投票録の各投票所での集計全体が基本的には大田区における総数になる。それが固まらない状態で。開票の作業を進めることはできないと思うのですが。

#### ○堀江委員

すいません。幾つかちょっと確認といいますか、先ほど、谷口先生の方からお話であったんですけど、PDF とかですね、投票録の画面とか、PDF で残ってるものを

見ることができますか、というお話もあったんですけど、それとチェック、どのようにできたかっていうと、投票状況で、19日までの集計とですね、70ヶ所、18ヶ所かもしれないんですけど、それなりにこういうPDFが残ってるわけですね。それらを足してけば、最終的に差は出るというのは分かるんじゃないですかね。不在者投票やってる方、選管職員2名ということですよ。ここでチェックの時間が午前9時、午後3時、6時の4回ということになりますんで、どっかで数字の齟齬、違いが出てくることは分からない？明らかにですね、早く速報値をまとめないといけないということはあるんでしょうけど、その辺で、この読み合わせをしながらということが書いてるんで、PDFを読み上げてこの赤いところに、それらをチェックしていくと、ここで増えてんじゃないのと、ということが分かるから、19日までの分と、ここに1日足しただけで、そんなに広がっちゃうっていうのは、入力していて、手作業してると怖いので、必ず入力した日とか、プリントアウト、その数字を確定、ここでも確定させないといけないわけですよ。それだったら、最終的な数字と、投票箱開けて、1票、2票と、その辺の数字の違いっていうのはどの辺で出たかというのはそういうのは分からないんですかね。開票所の方には携わったことないんですけど、投票の方では、何回か携わって。投票した枚数、投票用紙の枚数と投票所の投票録の突合というのは、かなりシビアにやってるはず、やってると思いますね。そうすると、そこで1日1日の積み重ねがある程度出てくると思いますんで、それで不在者投票というのは、大体1日について、数十人そこそこ、だいたい5〜6件ということで15日分足していくと、そこでも数字的な違いって出てくるんじゃないのかなと思うんですけど、その辺のチェックっていうのは、流されちゃったというか、甘かったとなると、投票の結果というのは、信憑性が少なくなっちゃうのではないかな。その辺のチェックの方法と、何らかの入力したときエラーが出るような形がとれていると思うんですけど、それが今後のね、見方の1つになるのかどうかですね、何

千人って来るわけですから、合計すると。期日前も含めても、かなりの数字になると思うんですけど、その辺の1日1日確定が曖昧だったというのは、ちょっとあまり良いように思わないんですけど、今後の課題、この見ると全部連携がなっていないと、繋がって合って当たり前だと思うんですけど、この辺の見方として、出てくるものじゃないですかね。

#### ○事務局

はい、ありがとうございます。不在者投票なんですけども、ちょっと説明があまりよくできなくて申し訳ありませんでした。不在者投票システムの中で、結局、不在者投票っていうのは日々加算されていって、最終的に、当日に向けて、19日までの累計のデータを別のエクセルにコンバートしていたと。20日に当日分がわかるので、そこをプラスして、全体の選挙の総数とするということでやっていたので、日々のデータというのは、バーコードを読み込んだものが、そのまま反映されていきますので、そこの狂いっていうのは、あまりないのかなと思います。今回はあくまで手作業で、最後に、集計するためにデータを入力するのを、19日までのデータを入れて、そのあとに20日分の当日を入れればいいところ、20日までの累計のデータを間違えて入れてしまった。これが大きな原因で、おっしゃる通り、チェックがですね、例えば、前回の数との比較で、エラーが出るようにとか、そういったところを、今後、エクセルで集計するにも、エラー表示だったり、何かできるような仕組みを、検討はしているというところでございます。

#### ○小島委員

ちょっとお話ししたいのは、不在者投票数を二重計上した際の帳票の様式を見たいんですね。開票所で速報を受けて。ただ電話を受けるだけでないでしょうから。具体的にはどういうエクセルの様式になっているのか、そういうのを見たいと思いますので。そういうものを見ないと、間違いを侵しやすいのか、どこに穴があったのかよく分からないので。

## ○谷口委員

ご説明ありがとうございました。先ほど先生方の質問と合わせて、なるほどそういうことだったかと。当初は、エクセルの習熟度とか扱う方の問題で累積でつい足しちゃったみたいなそういった操作ミスみたいなことがあるのかと想像していました。しかし今日伺ってる感じだと、データは間違っていないけども、今小島委員がおっしゃったように、分かりにくい形、19日何票、20日何票くらいしか書いてないと、それが当日受付分なのか、累積なのか、よくわからないから、別の人が見たときに勘違いして合計した、といったミスが浮かんできます。今おっしゃったように、エクセルファイルあるいはPDFファイルがどんな書き方、形態になっていたか分かりますとありがたいです。そうすれば、次回からはそこをちゃんと分かるように書きましょうという一つの改善策になりますよね。あともう1つは、先ほど堀江委員が質問されていたところで、実際当日に開票していた際に、二、三千票合わないとなった時に、そこから何をされたのかっていうところですね。たとえば二、三千票の違いから、データを疑うっていうことはなかったのか。つまり、当日票を数え直して、疑問票も見直してみたけれども、それでもなお大きく数字が違っていたら、データの方に何か間違いがあるんじゃないかっていうことに、本当に誰も思い至らなかったのか。つまり、大きな差が生じた後、何をしたのか。そこらへんはどんな感じだったのでしょうか。

## ○事務局

大変申し訳ないんですけども、今、そのあたりがですね、ちょうど警察の捜査と被るところでして、我々もどの段階でどのように、何が起きたかっていうのは調査を進めていく、ただ並行して警察の方も動いているという状況でして、今、確信というところが、正直、今判断できないというところですので、次回、次々回の中で、そういったところをですね、明確にしていかないと、課題というところがとらえられないっていうのは認識しておりますので、引き続きですね、そうい

ったことはしっかり調べてですね、ご報告できればと思っております。

### ○小島委員

よろしいですか。3の「選挙当日・投票速報」の下のあたりピンク色の塗ったところ、不在者投票の集計。午後7時頃と書いてありますがけれども、通常、実務的にはこれでもいいのかもしれませんが、投票所を午後8時に閉鎖しますよね。

8時までに不在者投票が指定投票区投票所に届いて、受理不受理の決定をして、不在者投票が、その票が果たして有効な票としてカウントできるものなのか、できないものなのか確定するんですけど、通常、大田区さんの場合は、午後7時頃になると新たなものが届かない。8時くらいまでは待つと、来るかもしれないし、分かりませんが。これ良いか悪いか分かりませんが、郵便局の方ですね、話をして、郵便局の方にですね、間に届いたものは午後8時の投票所の閉鎖に間に合いっこないのかもしれませんが、郵便局まで取りに行くようにして話をし、なるべく閉鎖時間に間に合わせて投票箱に入れるようにするのかなど。

### ○事務局

実際の運用としてはですね、通常ですと、郵便局の配達員の方が大田区役所まで郵送してくれるんですけど、選挙期間中は、この不在者投票は我々と郵便局の間で、我々が郵便局に出向いて、投票用紙の封筒などを取りに行くという運用をしております。実際に先ほど申した通り、不在者投票を受け付けた場合には大田区役所の本庁舎にあるシステムのほうで、受付の処理などする体制としておりまして、実はこの体制は当日の投票所ではこの受付のシステム、いわゆるシステム上に、集計などのシステムに反映することができないがために、郵便局で受け取ったものは、まずは、大田区役所の我々選管の方に、まず持っていく。そこで受付のシステムの処理をして、そこから指定投票区という実際に開披作業する投票所に届けております。このように作業時間等を考えると、午後8時までできればいいんですけども、実際にはここで郵便局から我々のほうに持ち帰って、受

付処理をして、それをまた投票所の方に持っていく、その時間帯を考えると、現状では午後6、7時そのあたりが限界というところでこういった体制を取っております。

#### ○小島委員

じゃあ仮に午後6、7時以降に来たものについては、その不在者投票はどんな処理をしているのか。

#### ○事務局

実際にはその時間帯に6時から8時の間に届いたことがないので、実際にその時に票があったかは、判断できないんですが、ただその翌日に、やはり届くケースなどもございます。そういったものもやはり今回の得票の票数にはちょっと加わらないということで、このような運用をしております。

#### ○小島委員

実態はよく分かりました。ちょっとはこれ関係ない参考かもしれませんが、実際、不在者投票請求が、他市町村のもの、指定施設のもの、あと選管で直接やった18歳になる前の方の不在者投票については当然いいんですけど、請求をして、実際に投票して戻ってきた数字の差ってそのくらいあるんですか、不在者投票。実際、鉄砲玉で請求者に行ったっきりで特にカウントしてないんですか。

#### ○事務局

交付した枚数と実際に戻ってきた枚数、システム上ではカウントしておるんですが、ちょっと今私のほうで数字を控えてはいないので、申し訳ございません。

#### ○谷口委員

はい、ありがとうございました。当日のことは確認させていただいたので、よく分かりました。今まだ究明中の部分もあるということですね。では、選挙より前というか背景的なところの確認なんですけれども。大勢の方が開票作業に関わるにあたって、全体としての打ち合わせなり研修なりみたいな、体制はどのような

状態だったのでしょうか。選挙の前に全体的なプロセスの打ち合わせとかですね、そういったことを研修したりさせたりする場があったのか、また個別のおそらく担当部署に分かれて、また事前に手順を打ち合わせすることがあったのか。そして、自分の部署のことしか関心がない、そこしか分からないという状況だと、当日に課題が生じたときに、他の原因が思い至らない、或いは自分は関係ないから、それは扱った人たちの責任だみたいな、他人事になってしまいかねない。全体として適切な結果を出すための、事前の準備なり研修なりがあったかどうかというところを教えてください。

### ○事務局

ちょうど並行して研修のですね、状況を今作ってまして。まだできて確認をしてないところなんですけど、期日前投票ですと、おおよそこちら委託をかけているんですけども、100%ですね、全員の方が受けているみたいなところなんです。あと当日の投票事務の従事者、これは投票の方ですね、こういったところも、いわゆる3役といいまして、事務長、あと庶務係長、相談係、この3役については、対面で1時間半ぐらいやるのと、あと新規のですね、庶務係長、あと相談係についても研修をやっているというところがございます。あとは投票所における名簿対照だったり、用紙交付、こういったところは希望制でやっているというところなんです。あと開票事務については、集計班や疑問班であったり、こういったところで、担当ごとに研修をやっているという状況です。

### ○谷口委員

はい。ありがとうございました。こういうふうにとまとめて、ご準備されていて、素晴らしいと思います。あとは、選挙事務に詳しい方が開票日にいらしたらこういう問題に対処できそうな気がしますし、その場にいない場合は引き継ぎみたいなことがあったのかどうか、という点はいかがですか。

### ○事務局

そうですね。我々も選管の体制などは精査しないといけないという部分もあるんですが、やはり体制として、選管は他の 23 区と情報共有しておって、他区に比べると、いわゆるベテラン職員、選管歴・選挙の実務経験が長い方っていうのがあまり大田区の選管にはおらない状況でございます。今回も選挙の執行体制におきましても、おおよそ半分くらいの人数が選挙事務・選管の業務未経験といったこともあるので、そういった投票開票全体を見渡せる者ですね、今の系の体制としても、投票班、開票班で分かれておって、それを全体で見渡して、見れる者がおらないという体制的な問題も課題として認識しております。

#### ○佐藤委員

すみません。今回、事実関係の整備ということで、次回の委員会にて、いろいろとその辺についてお聞きしたいなと思っておりましたので、次回、そういう体制とか、研修をどのようにやっていたのかとか、教育的なものはどうだったのか、時間に追われていなかったのか、という点について、ご説明いただけますと助かります。

#### ○小島委員

その他よろしいですか。いずれにしても選挙事務っていうのは、担当者が自らの担当の仕事だけ知っていれば良いというものじゃなくて、選挙執行の全体の中で自分はどういう仕事をしているのか、自分の仕事は周りとうどんう関係にあつて、どんう影響をするのか、どんうことを理解しながら仕事をしないと、いけないどんうふうにおつております。私も現役時代、職員にはどんうふうにお徹底してきました。それからもう 1 つ、今、投票所における投票者総数の把握の関係と、開票所におけるやり方となんかちょっとごちゃ混ぜみたいな感じがするので、まずは投票の段階における投票者総数、数字の把握だつたり、どんうものをきちんと研修をして、そのことを理解した上で開票において、その数字を是として使つちやつたのか、要するにベテランの人が独断でやつちやつたのかどうか

とか、独断でやったとすればその動機はなんだったのか、そういうような原因究明していければいいのかなと思いました。

さっきちょっと話にありましたが、様式類をきちんと見せてもらおうと、具体的な話ができると思います。ご説明していただいた現状を具にお示しいただいたパワーポイントの資料は優れた資料だと思ってますけど、実際に使用した様式類が見えないと、集計するにあたってどのようにしたか分からない。やっぱり今聞いていますと、システムの連携に関して、エクセルで入力したり、PDFであったり、そういう部分が複雑になっている感じですね。

結局ですね、私思うんですけども、数字、一票一票がですね、民意、総意なんですね。白票であろうが、なんだろうが。大多数の職員の方はきちんとやられていると思うんです。一部の人の行為のせいで、全体が悪くなってしまう。ここで言うことではないかもしれませんが。

それではここで次回以降のスケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

## ○事務局

それでは、資料の「6 開催スケジュール案」についてご説明を申し上げます。こちらは本第三者委員会の今後のスケジュールを示した事務局案でございます。まず上段、全体方針としましては、本委員会の提言時期は令和7年度末、開催回数は全5回を基本とし、議論の進捗や委員のご意見に応じて、調整をして参りたいと思っております。検討の主眼は、事実関係の整理、原因・課題の究明、再発防止策の立案という3段階を踏まえて段階的に深めていく構成としております。中央の表をご覧ください。本日実施の第1回は、開催趣旨の共有、委員長の互選、諮問、そして事実関係の整理というところでございます。次回は、11/28を予定しております。今回の事案の原因や課題の究明、あと再発防止策の整理。

それとですね、本日いただいたご意見等ですね、まとめまして、迎えたいと思っ

ております。第3回では、再発防止策の方向性の検討。年明けの第4回では、これまでの議論を踏まえて提言案の整理検討。最終回としまして、提言を示していただく予定としております。説明は以上でございます。

#### ○小島委員

ありがとうございました。委員の皆様、これまでの話しにおける補足の意見よろしいですか。

日程的にはこういうことで、よろしいでしょうか。本日の審議は以上になりますが、その他委員の皆様から何かございますでしょうか。もしなければ本日はこれにて閉会とさせていただきます。

#### ○事務局

司会を事務局にお返しいただいたというところで、今後の事務連絡でございます。冒頭もお話させていただきましたが、本日の資料と議事録については、それぞれ区ホームページで掲載いたします。また、今後の会議開催につきましても、同様にホームページでお知らせさせていただきます。なお、今後の会場については開催日により異なる場合がございます、また会場の都合により、傍聴人数が限られる場合がございますのでご承知いただければと思います。本日は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。